

## ふんぱろう東日本支援プロジェクト

# 2013年度事業報告書

## 1. 概要

未曾有の大震災が東日本を襲った2011年3月11日の翌月、被災地支援を目的として任意団体「ふんぱろう東日本支援プロジェクト」(以下「ふんぱろう」)は発足しました。被災3年目を迎えた2013年も、多くの個人の方々、企業の皆様の温かいご支援を得て「ふんぱろう」は様々な被災地支援の活動を行い、2013年12月31日をもって3期目が無事終了しました。

2011年4月、緊急の物資支援から始まった「ふんぱろう」の活動は、最盛期には50以上のプロジェクト・支部・運営チームを擁していましたが、3年目を迎えた2013年度に入ってから、初期の目的を達成したため活動を終えたプロジェクトもありますし、また別団体として独立するというプロジェクトも見られました。それも現地のニーズにあった健全な進化であると考えております。

そうした状況を踏まえ、昨年9月以降に本格的に導入した「ふんぱろう2.0体制」(注1)では、それまで「ふんぱろう」に所属していた各プロジェクトや支部を「公認団体」として独立させ、各団体の活動の自律性を強化することができました。

2013年12月末現在の公認団体数は16団体(岩手・宮城・福島等の支部を含む)、提携団体(注1)は6団体、「ふんぱろう」自体のメンバー数は、約3,000名(Facebookのfubaroo allグループの登録人数2014年2月末時点)と、引き続き国内有数の東日本支援ボランティア団体として活動させていただいております。

(注1) ふんぱろう2.0体制の大きな変更点は、各プロジェクトや支部が「ふんぱろう」の“公認団体”となって独立し、ふんぱろう本部から必要な資金の提供を行うことで、それぞれの公認団体代表を中心に、より一層自律的に活動しやすくなったことです(わかりやすく言えば、一社だった大企業をグループ会社にしてその傘下の系列企業が独立して運営されるイメージです)。また、“提携団体”は、「ふんぱろう」およびその公認団体の活動目的に沿った支援活動を展開している外部団体で、「ふんぱろう」から支援金を支出しています。公認団体・提携団体とも、ふんぱろうへの活動報告とその対外公表を義務付け、支援金が適正に使われているかをチェックする体制としています。

「ふんぱろう」の3期目の活動は、それまでの継続プロジェクトとしては、学校等学習環境が整っていない子供たちを対象とした“学習支援プロジェクト”や、“重機免許取得プロジェクト”、自立支援・コミュニティ再建を目指した“ものづくりプロジェクト”、新たに発足した「南三陸お手伝いプロジェクト」、コミュニティ活性化の拠点作りとしての「み

「みんなの創造空間」の推進といった被災地・被災者の方々のニーズに沿ったお手伝いを行いました。支援の内容がより現地ベース型の自立支援へシフトしてきております（各公認団体〈プロジェクト・支部〉の活動実績に関しては、ふんばろう東日本支援プロジェクトのホームページ〈<http://fumbaro.org/>〉にて記載しておりますので、割愛させていただきます）。

また、継続的にふんばろう東日本支援プロジェクト全体の活動を支援していただいている、「ふんばろうサポータークラブ」を通じた個人の方々からのご支援は、2013年は約1,200名の方から32百万円と、前期比70%以上増加しました。こうした皆様方からの暖かいご支援により、昨年・今年の「ふんばろう」の活動は支えられております。

「ふんばろう」から支援金を拠出した主な活動としては、

- 被災者自身の生活再建や再就職に有効な「重機免許取得プロジェクト」を中心とした「復興支援グループ」に対して、8,611千円
  - 南三陸において、海岸部に街路灯の設置を進める「南三陸お手伝いプロジェクト」に3,240千円、
  - 岩手支部に3,169千円
  - 石巻、新地(福島県)などで、地元のコミュニティ再建とともにお母さん方のものづくり活動を支援する「ものづくりプロジェクト」に3,000千円、
  - 学習環境が十分でない学生の勉強をサポートする「学習支援プロジェクト」に2,712千円、
  - 大船渡において、地元アーティストやアートを通じたコミュニティ活性化に取り組む「みんなの創造空間」に2,591千円、
- 等があります(いずれも、体制変更が試行されて以降のふんばろう本部からの公認団体への支援金送金額です)。

また、「ふんばろう2.0体制」の下で導入した提携団体向けの支援に関しては、さかなのみうら(南三陸にて生活必需物資の配送を実施している団体)、学習支援関係団体の「TEDIC」、「底上げ」、「TERACO」や、メンタルヘルス関連の「日本遠隔カウンセリング協会(JTA)」などに支援金を支出しました。

こうした活動の結果、翌期への繰越金は約60百万円と、前年(平成24年12月末75百万円)対比では15百万円減少した形となりましたが、繰越金は今後、① 被災地で活動実績を上げている諸団体(提携団体を含みます)への支援をきめ細かく行うほか、② 主として企業様からの支援金をもとに、スマートサバイバープロジェクト(注2)の推進等、防災教育にも充ててゆく予定です。

(注2) 東日本大震災の教訓を、今後想定される津波や地震に対する防災教育に生かすことで未来の命を守ろうという西條代表直轄のプロジェクトです。

今後、「ふんばろう」は支援者の方々からの暖かいご支援を有効に活かすべく、ニーズの変化に対応して団体の活動形態についても臨機応変に見直してまいる所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2. 2013 年度運営体制の報告

2- (1) 会員数: 約2,988人(2014年2月28日時点)

※facebookの「Fumbaro\_allグループ」の登録人数

2- (2) 会議

2013年は各チームの自律的な活動が基本となったため、全体ミーティングとして開催したミーティングはかなり減少していますが、個々のチーム(団体)ごとのミーティングは随時行われております。

### ① 全体ミーティング(2012年度に続き開催)

#### 【目的・概要】

早稲田大学にて、東日本大震災被災者の支援活動状況の共有や、西條代表から全体の方向性について伝える場、また、実行中のプロジェクト・支部・チーム(班)の紹介・意見交換の場として開催しています。

2013年は、2回開催されました。

#### 【実施日】

- ・第18回 全体ミーティング・総交流会 2013年 3月31日
- ・第19回 全体ミーティング 2013年 7月21日

### ② 各公認団体(プロジェクト・支部)・班などのミーティング

#### 【目的・概要】

個々の公認団体や本部各班の活動を具体的に進めるための打ち合わせで、会議の頻度・内容もリーダーを中心に各団体や班にゆだねられています。

#### 【実施日】

各公認団体・班ごとに随時開催(各団体の活動報告等をwallpaper等でご参照下さい)

2014年3月29日 ふんばろう東日本支援プロジェクト代表 西條剛央